珪藻土配合化粧仕上材

ユニオンカベックス

【標準施工要領書】

平成 24 年 4 月 1 日

二瀬窯業株式会社

1. はじめに

本書は弊社製珪藻土配合化粧仕上材の施工にあたり、各下地毎の施工要領について示したものある。

本書の構成を以下に示す。

1. 内装編
   1. 石膏ボード下地
   2. コンクリート下地
   3. モルタル下地
   4. 既存ビニールクロス下地（リフォーム）

2. 外装編
   1. コンクリート下地
   2. モルタル下地
   3. 軽量セメントモルタル（弊社製　ヒットモルタル）下地
   4. ＡＬＣパネル
   5. 窯業系サイディング（3×10 板）下地
   6. ブロック塀（既設、新設）下地

内　装　編

1. 石膏ボード下地への施工

1.　ボードの取り付け

- ボードの取り付けは、１枚目と２枚目のジョイント部分が重ならないように２重貼りとして下さい。２重張りにすることによりボードの動きを抑制し、仕上げ面でのクラック防止に効果的です。（特に大壁になるような部位や道路に面した部分は振動によりクラックが入る可能性が非常に高くなりますので必ず２重張りして下さい。）
- ２重張りには上張りはビス止めだけではなく接着剤を併用して留め付けて下さい。
- 石膏ボードは厚さ 12.5ｍｍ以上のものを使用し、（厚さ 9.5ｍｍのものはより動きが大きくなることが予想されます。）原則として５ｍｍの目透かしとしてください。（ベベルボード、テーパーボード、スクェアボード、すべて目透かしとして下さい。）目透かしを行い、ボードとボードの間に材料（センイモルタル推奨；高性能ファイバー配合下地調整材）を詰め込むことで、ボードが動いた場合でもその動きを材料が緩衝し仕上げ面でのクラック防止に効果的です。

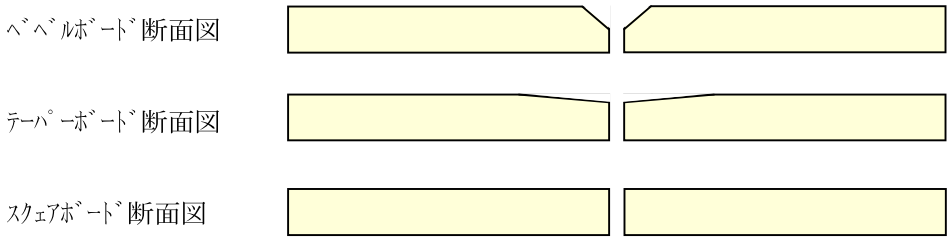


図１　ボードのエッジの形状

- ボード取付ビスの間隔は、150ｍｍ以内を厳守してください。（ボード周辺部では 150ｍｍ以内、中間部では 200ｍｍ以内として下さい。）
- ボード取付ビスは防錆処理されているものを使用して下さい。
- 施工前にボードの中心部やジョイント部分を指で押さえてボードが動かないことを確認してから施工して下さい。この時点で動きがあるようなら更にビスを留め、補強して下さい。
- 汚れやほこり等が表面に付着している場合は、これを除去し、清掃を励行して下さい。
- 上記以外の事項については、『ＪＡＳＳ　２６　内装工事』に従って取り付けて下さい。

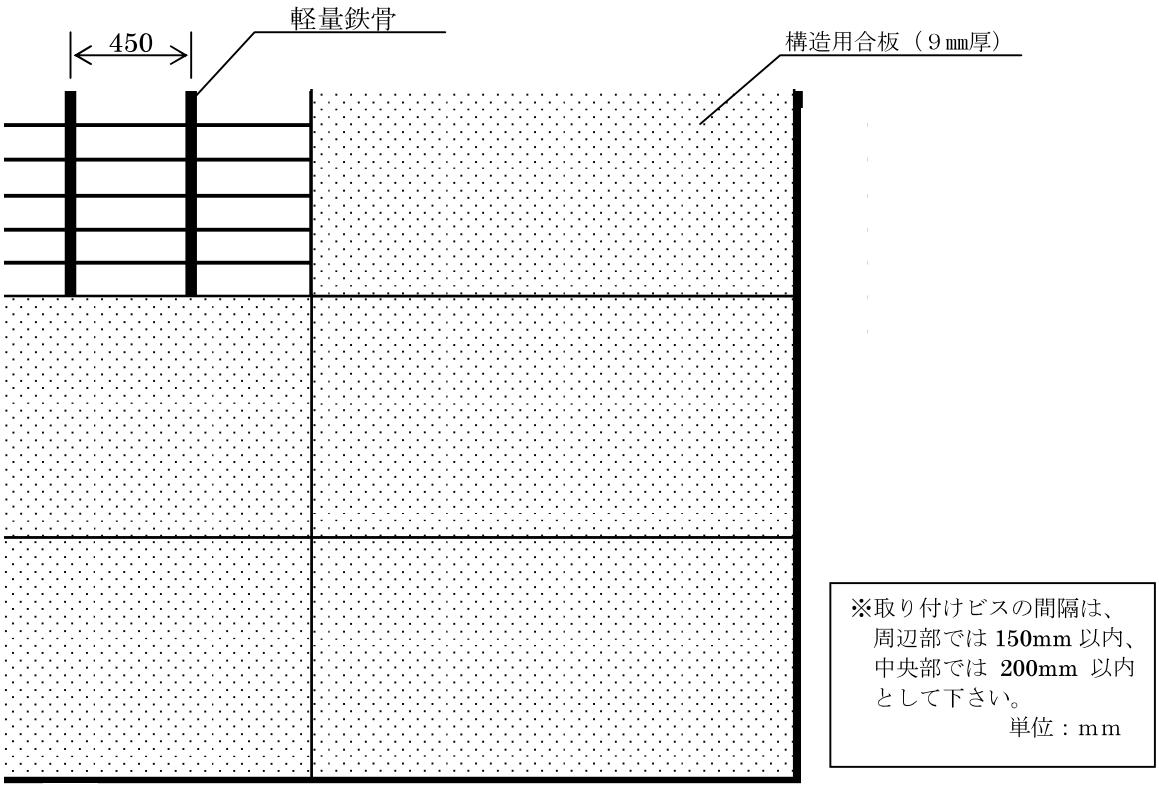


図２　軽量鉄骨下地のときのボードの取り付け（１枚目）

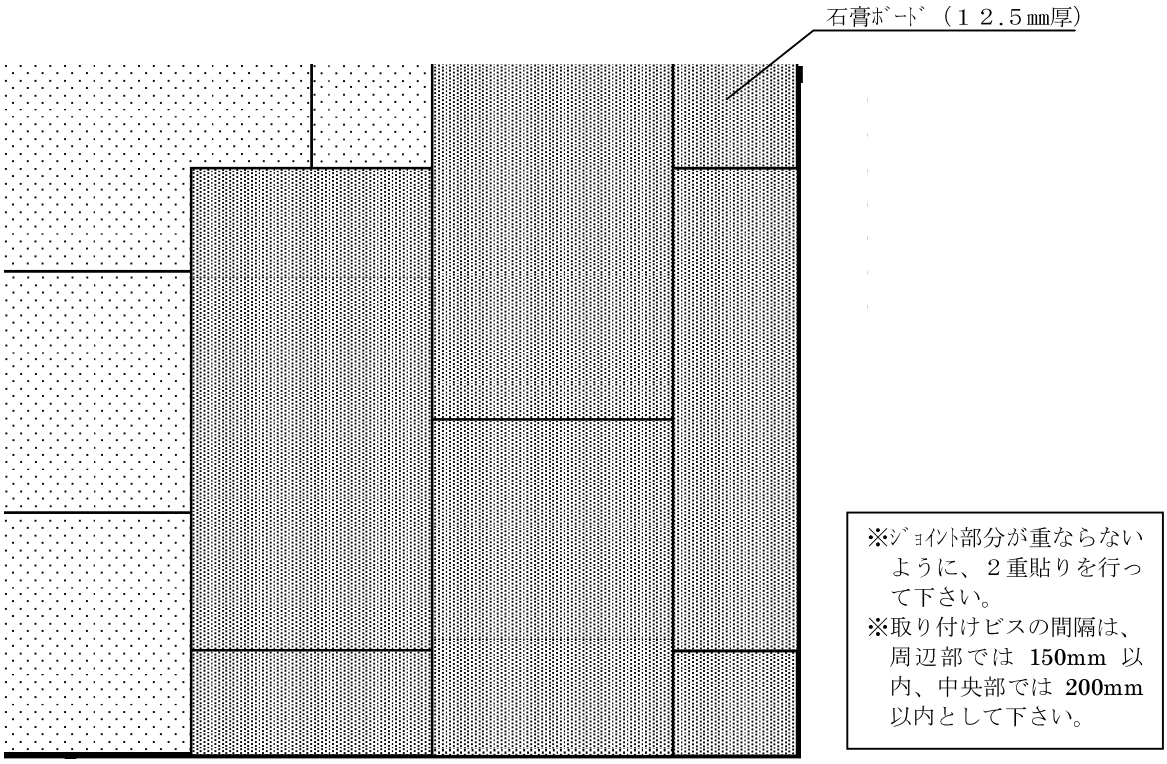


図３　軽量鉄骨下地のときのボードの取り付け（２枚目）

2. 吸水調整

・ 石膏ボード下地に、ユニレックス３の５倍希釈液を塗布し吸水調整を行って下さい。ジョイント部分など、石こうボードの切り口がむき出しになっている部分は、特に念入りに吸水調整を行って下さい。

吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

3. 下地処理

3-1 ジョイント部分の処理

・センイモルタルに規定量の水（4.4Ｌ／袋）を加えハンドミキサー等を使用し、約３分間程度かけ十分に混練して下さい。

・混練したセンイモルタルで目透かしを行った石膏ボードのジョイント部分全てに埋め込み、４時間程度養生して下さい。（養生しないまま次工程に移るとやせが生じます。）

・養生後、ジョイント部のボード表面にしごき塗りを行った後、ファイバーネット（日東紡製　KTV-7226（100㎜幅）推奨）をコテでふせ込んでください。

・特にクラックを気にする部分については 100㎜ 幅のファイバーネットではなく更に幅の広いファイバーネットを使用して下さい。

3-2 下地処理

・ ファイバーネットをふせ込んだ後、施工面全面をセンイモルタルで塗り付け、全面下地調整を行って下さい。（標準塗厚 2ｍｍ程度）多少締まりかけの時点で霧吹きによりセンイモルタルの表面に散水することにより、表面を平滑にすることができます。

・ ジョイント部の処理を行った後、追っかけにて全面下地調整を行い、目地部分と面部分との段差が出ないよう塗りつけてください。時間を置くと段差ができやすくなり、仕上材の色ムラ等の原因となります。

・ ジョイント部同様、出隅部、入隅部、開口部廻りはファイバーネットを伏せ込み補強および割れ防止の措置を取ってください。

・ 下地が十分に乾燥した後、次工程に移って下さい。目安としては 3 日間以上です。ただし、気象条件により異なりますので必ず確認を行って下さい。下地が乾燥しないうちに仕上材を塗り付けると色むら等の恐れがあります。

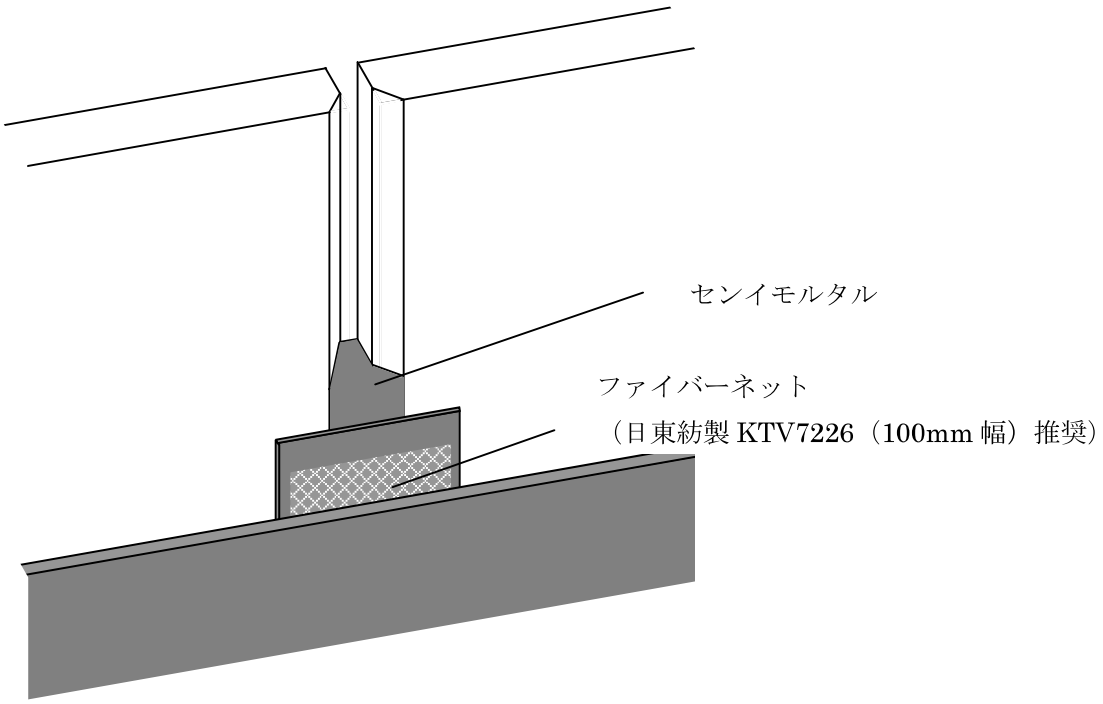


図 4　ジョイント処理及び下地処理の工程（ﾍﾞﾍﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞの場合）

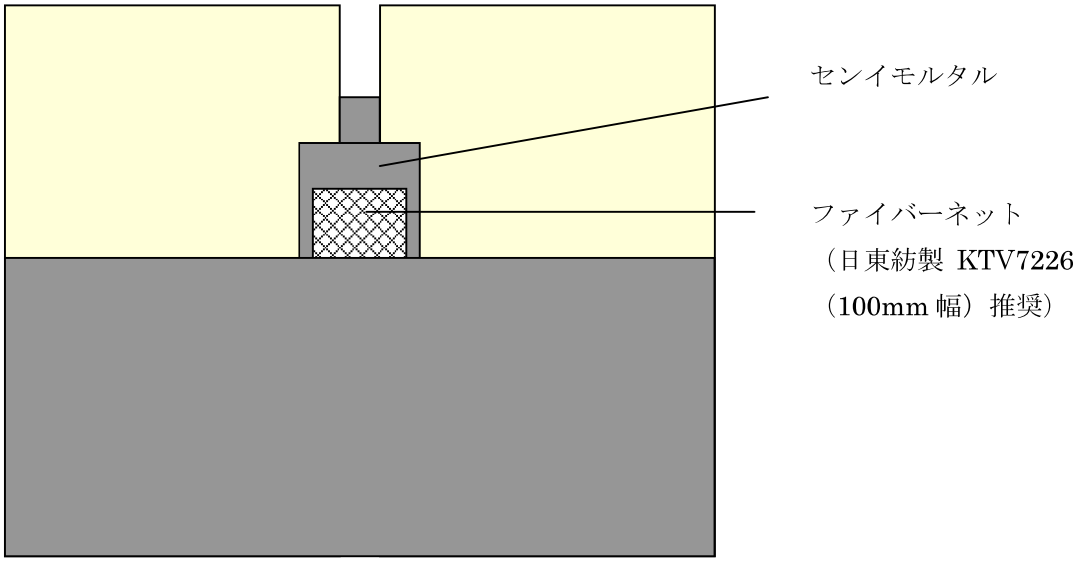


図 5　ジョイント処理及び下地処理の工程

出隅部分の処理

・出隅部分はボードを突きつけることなく、ジョイント部同様 5ｍｍ程度目透かし
を行って下さい。その後の工程もジョイント部と同様に行って下さい。

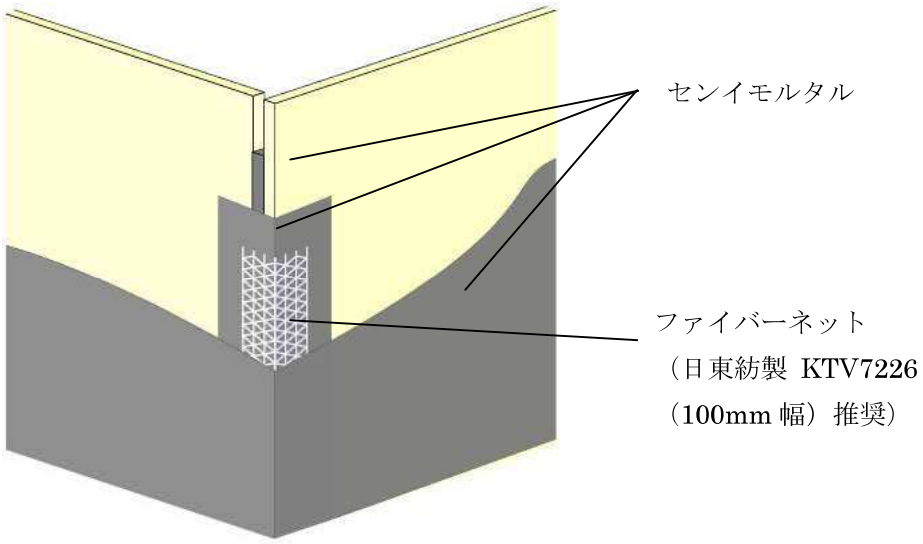


図 6　出隅部分の処理

入隅部分の処理

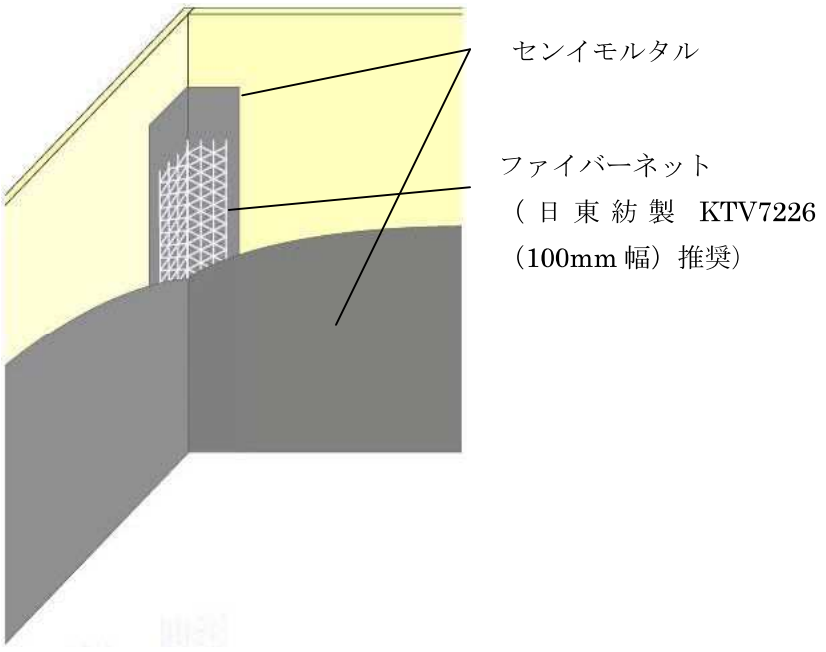


図 7　入隅部分の処理

開口部分の処理

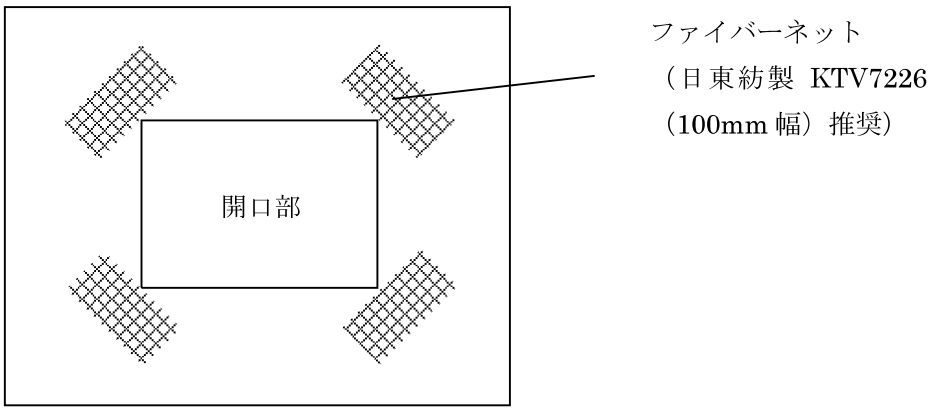


図 8　開口部の処理

2. コンクリート下地への施工

1. 下地の確認

・施工前に躯体の精度を確認して下さい。

・レイタンスや油類、コンクリート型枠の離型剤が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を励行して下さい。

・コンクリート打放し面の極端な凸部や脆弱部分はサンダー等で除去し、必要なら補強を施して下さい。

・鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施して下さい。

・段違い、ジャンカやコーナーの欠損部はポリマーセメントモルタル（ベース#20、ベース#30 など）を充填して補修して下さい。

・大きなクラックはＶカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#20、ベース#30 など）を充填して補修して下さい。

2. 吸水調整

・下地を確認した後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

3. 下地調整

・吸水調整の後、ポリマーセメントモルタル(ベース#10 など)で全面下地調整して下さい。

・ポリマーセメントモルタル（ベース#10 など）で下地調整の後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等発生する恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

※下地の表面精度は±1㎜以内にして下さい。
下地の精度が悪いと、仕上げ面の仕上げムラ、色ムラまたは必要以上に材料を使用する恐れがありますので注意して下さい。

3.モルタル下地への施工

1.モルタル下地作製

・木ゴテで表面を整え、金ゴテで押さえ、仕上げて下さい。

・モルタル塗り付け後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

2.吸水調整

・モルタル養生後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

※下地の表面精度は±1㎜以内にして下さい。
下地の精度が悪いと、仕上げ面の仕上げムラ、色ムラまたは必要以上に材料を使用する恐れがありますので注意して下さい。

4.既存クロス（ビニールクロス）下地の場合

1. 下地の確認及び清掃

・クロスの破れた部分やはがれた（めくれた）部分は適宜補修して下さい。補修後、かたく絞った雑巾でよく拭きあげて下さい。
（汚れが著しい場合は中性洗剤を使用して出来るだけ汚れを落として下さい。ただし、洗剤使用後は界面剥離の原因になりますので十分に拭きあげて下さい。）

2. シーラー処理

・下地の清掃後、ユニオンシーラーＫＣを原液のまま施工面全面にローラー等を使用して塗布して下さい。シーラー材を塗布し乾燥後、次工程に移って下さい。目安としては２～４時間以上です。（気象条件等により異なります。）

外　装　編

1. コンクリート下地への施工

1. 下地の確認

・施工前に躯体の精度を確認して下さい。

・レイタンスや油類、コンクリート型枠の離型剤が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を励行して下さい。

・コンクリート打放し面の極端な凸部や脆弱部分はサンダー等で除去し、必要なら補強を施して下さい。

・鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施して下さい。

・段違い、ジャンカやコーナーの欠損部はポリマーセメントモルタル（ベース#20、ベース#30 など）を充填して補修して下さい。

・大きなクラックはＶカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#20、ベース#30 など）を充填して補修して下さい。

2. 吸水調整

・下地を確認した後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

3. 下地調整

・吸水調整の後、ポリマーセメントモルタル(ベース#10 など)で全面下地調整して下さい。

・ポリマーセメントモルタル（ベース#10 など）で下地調整の後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等発生する恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

※下地の表面精度は±1㎜以内にして下さい。
下地の精度が悪いと、仕上げ面の仕上げムラ、色ムラまたは必要以上に材料を使用する恐れがありますので注意して下さい。

2. モルタル下地への施工

1. モルタル下地作製

・木ゴテで表面を整え、金ゴテで押さえ、仕上げて下さい。

・モルタル塗り付け後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

2. 吸水調整

・モルタル養生後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

※下地の表面精度は±1㎜以内にして下さい。
下地の精度が悪いと、仕上げ面の仕上げムラ、色ムラまたは必要以上に材料を使用する恐れがありますので注意して下さい。

3.軽量セメントモルタル（弊社製ヒットモルタル）下地への施工

1.ヒットモルタルの塗り付け

1-1.アスファルトフェルトの張り付け

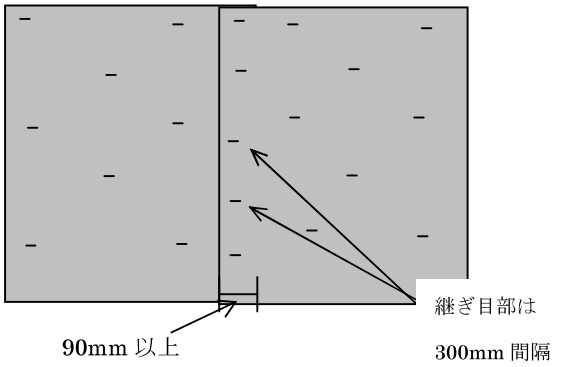
・下地の乾燥状態、浮き、釘打ち間隔、補強金物の状態を調べ、異常があれば適切な処理を行って下さい。

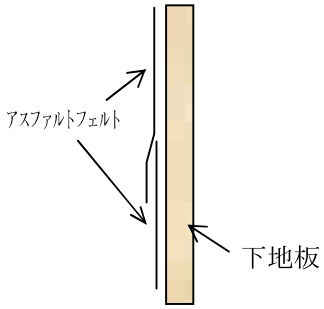
・張付は縦張りまたは横張りで均一に張り付けて下さい。

・継ぎ目は縦横とも９０㎜以上重ね合わせ、上下の継ぎ目は上部のフェルトが下部のフェルトの上に重なるようにして下さい。

・たるみ、しわの無いように十分伸ばしながらタッカーを用いて、継ぎ目部分は約３００㎜間隔、その他は要所に打ち留めて下さい。

・開口部まわりの防水両面テープはアスファルトフェルトを張る直前に剥がし、アスファルトフェルトと十分圧着して下さい。



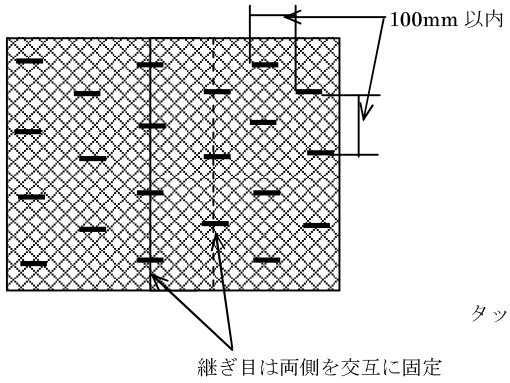


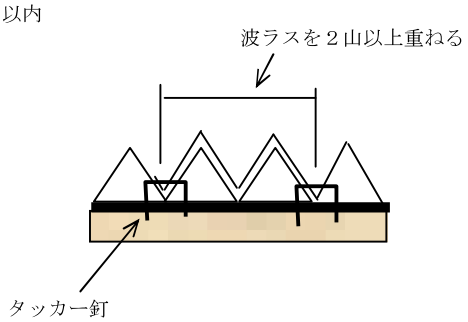
1-2.メタルラスの張り付け

・メタルラスの配置は縦張りにて千鳥に配置して下さい。

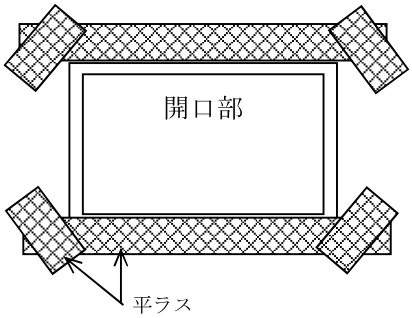
・固定はエアタッカーを使用し、タッカー釘を千鳥に打ち留めて下さい。

・タッカー釘の間隔は１００㎜以内で個数１００個/㎡以上として下さい。
継ぎ目は２山以上重ね、タッカー釘を継ぎ目の両側に交互に打ち留め十分固定して下さい。

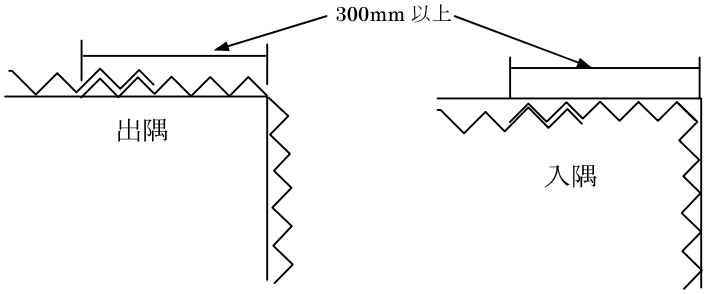




・開口部まわりは全面に波ラスを張り付けた後、開口部上下に平ラス１号以上を 200㎜×開口部幅程度にカットし張り付けて下さい。さらに平ラス１号以上を 150×400㎜程度にカットして、開口部４隅に斜めに張り付けて下さい。
（アルミサッシには直接触れないように 10㎜ 以内で配置して下さい。）
補強用の平ラスは縦方向に裁断して下さい。



・出隅・入隅は廻し張りを行って下さい。（コーナーより 300㎜ 以上廻す）



※アスファルトフェルト及びラスに浮き上がり・たるみが無いか十分に点検して下さい。（ひび割れの原因となります）

1-3. ヒットモルタルの塗り付け

①ヒットモルタルの練り混ぜ

・ヒットモルタルに規定量の水（約 8L）を加えモルタルミキサーまたはハンドミキサーにて十分に練り混ぜて下さい。

※気温が２℃以下及び２℃以下になると予想される場合は、施工を避けて下さい。
練り混ぜ後４０分以内に塗り付けて下さい。

②ヒットモルタルの塗り付け

１） 下塗り

・ヒットモルタルがラスを十分被覆するように、ラスが変形しない程度のこて圧で塗り付けて下さい。

２） 上塗り

・下塗りが締まってきたら（指先で軽く押して少しへこむくらい）上塗りを行って下さい。（夏期１～２時間程度、冬期４～５時間程度）

・下塗りと十分密着するようにこて圧をかけながら所定の厚みに塗り付け平滑に仕上げて下さい。（下塗り・上塗り合計**１６㎜以上**塗り付ける）その際、ヒットモルタルの仕上げ面の上側にファイバーネット（日東紡製ＫＴＶ７２２６（1m幅）推奨）がくるようにヒットモルタルに伏せ込み全面ネット処理を行って下さい。

・水引の程度を見計らい、ムラを直し、ちりまわりを正しく仕上げて下さい。

※開口部まわりには目地棒を入れ、ヒットモルタルが硬化したのちシール材を充填して下さい。

※開口部まわり同様、3m間隔おきに縦方向に目地を取ってください。また、横方向については各階層毎に目地を入れてください。目安としては10m²に１本の割合で目地を入れてください。いずれもヒットモルタルが硬化した後、シール材を充填し、仕上材でかぶせることなく縁切りを行って下さい。

※下塗りが乾燥してから上塗りを行う場合は、水打ちを行って、完全に乾燥した後上塗りを施工して下さい。

※強い風・強い日差しを受けると急激な乾燥が生じ硬化不良・ひび割れの原因となりますのでシート養生や散水養生などの処置を講じて下さい。

・ヒットモルタル上塗り施工後１０日間（冬期１４日間）以上の養生期間を経て次工程に移って下さい。確実にヒットモルタルが乾燥していることを確認してから施工を行って下さい。養生が不十分な場合には色ムラ等発生する可能性があります。

2. 吸水調整

・ ヒットモルタル下地に、ユニレックス 3 の５倍希釈液を塗布し吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず事前に確認してください。）

4. ＡＬＣパネルへの施工

1. 下地の確認

・汚れやほこり等が表面に付着している場合は、これを除去し、清掃を励行して下さい。

2. 吸水調整

・表面精度の調整及び清掃が終わった下地に、ユニレックス３を５倍に希釈したものを左官刷毛等で塗り付け吸水調整を行って下さい。

（ユニレックス３　：　水　＝　１　：　４）

・ＡＬＣ板下地の場合には吸い込みが激しいため、一度吸水調整を行った後、再度ユニレックス３の５倍希釈液を塗り付け、２回塗りを行ってください。
・希釈液を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。

3. 下地処理

・　Ｖ目地をセンイモルタルで平滑に埋めて下さい。次工程までの養生は４時間程度として下さい。（養生しないとやせが生じます。）
・　ＡＬＣ板のジョイント部分は、センイモルタルでしごき塗りを行った後、ファイバーネット（日東紡製　KTV-7226（100㎜幅）推奨）をふせ込んでください。
・　ジョイント処理後、センイモルタルにて全面下地を作製して下さい。

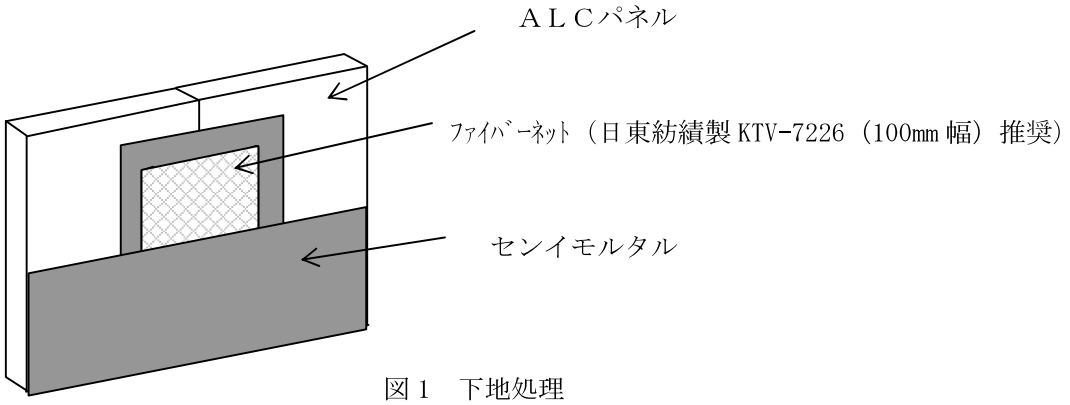


図１　下地処理

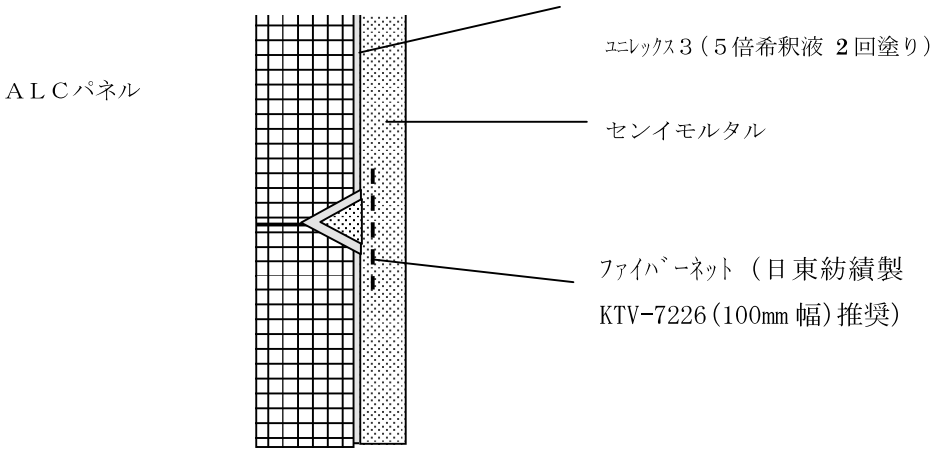


図２　下地処理断面図

４.伸縮目地の処理

・　伸縮目地は、下記の枚数毎に設置して下さい。

（ＪＡＳＳ２１　ＡＬＣパネル工事の仕様に従ってください。）

ＡＬＣパネルの構造		縦方向の伸縮目地の設置間隔
a.	縦壁スライド構法	ＡＬＣパネル５枚以内に設置
b.	縦壁ロッキング構法	ＡＬＣパネル毎に設置
c.	ＡＬＣの出入隅部、横目地部、基礎部分及び他材料との取り合い等の伸縮目地及び開口部周囲には、伸縮目地を設けてください。	

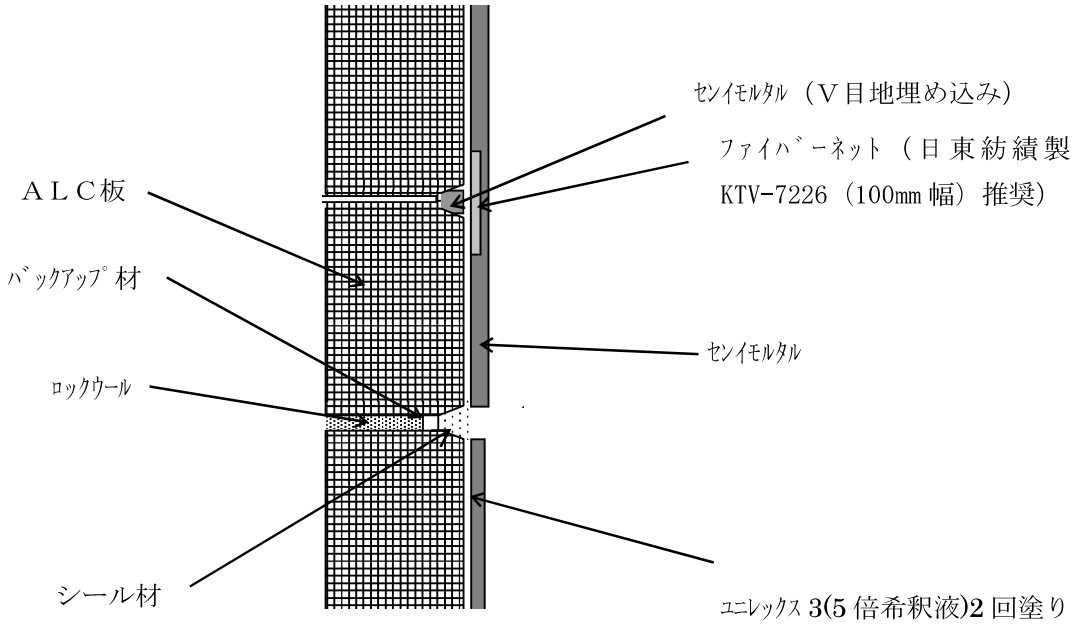


図３　ＡＬＣ板への施工断面図

※　シール材は仕上材と同系色のものにすることをお勧めいたします。

5.開口部、出隅、入隅の処理

・ジョイント部同様、開口部・出隅・入隅よりクラックが発生することが多いため、センイモルタル施工時にネットを挟み込んでください。

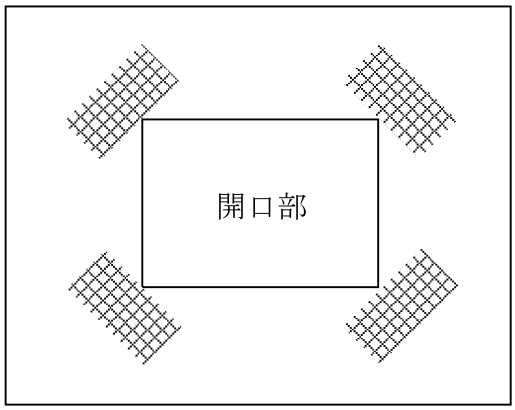


図４　開口部の処理

5. 窯業系サイディングボード（無塗装板）への施工

1. 窯業系サイディングボード（無塗装板）の取り付け

- 使用する窯業系サイディングボードは湿式の塗り壁施工が可能であるか事前に確認を行って下さい。サイディングボードの種類によっては寸法安定性が悪いものがあります。
- 各外装板の仕様に従いボードの取り付けを行って下さい。ただし、１階部分と２階部分の継ぎ手は必ずコーキングを打ち、仕上材でかぶせることなく、縁切りを行って下さい。またコーキング部分の上には原則として仕上材は塗布しないで下さい。コーキング剤は仕上材の色と同系色のものをお勧めいたします。
- また、１階部分と２階部分の継ぎ手同様、開口部廻り及び入隅部は必ずコーキングを打ち、仕上材でかぶせることなく、縁切りを行って下さい。
- 縦目地は3m程度毎にコーキングを打ち仕上材でかぶせることなく､縁切りを行って下さい。
- ボードの取付後に手で荷重をかけボードが動くことが無いことを必ず確認して下さい。この時点で動きがあるようならば、施工後仕上材表面のクラックが予想されますので、再度ビスを打ち付ける等の補強を行って下さい。（ビスの間隔は150㎜以内の間隔で留めてください。）

2. 吸水調整

- シーラー処理品であれば吸水調整の必要性はありません。
- 無処理の場合には、ユニレックス３の５倍希釈液を塗布して吸水調整を行って下さい。
- 吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから次の工程に進んで下さい。目安としては、４時間以上です。（気象条件により異なりますので必ず乾燥していることを確認した後、次工程に移って下さい。）

3. 下地処理

3-1 ジョイント部分の処理

- センイモルタルに規定量の水（4.4Ｌ／袋）を加えハンドミキサー等を使用し、十分に混練して下さい。
- ボードのジョイント部分の溝にセンイモルタルを詰め込み、表面にしごき塗りを行った後、ファイバーネット（日東紡製　KTV-7226（100㎜ 幅）推奨）をコテでふせ込んでください。（標準塗厚 2ｍｍ程度）

3-2 下地処理

- ファイバーネットをふせ込んだ後、施工面全面にセンイモルタルを塗り付け、下地調整を行って下さい。多少締まりかけの時点で霧吹きによりセンイモルタルの表面に散水することにより、表面を平滑にすることができます。
- ジョイント部の処理を行った後、追っかけにてボード全面にセンイモルタルにて下地調整を行って下さい。時間を置くと段差ができ色ムラ等の原因となります。

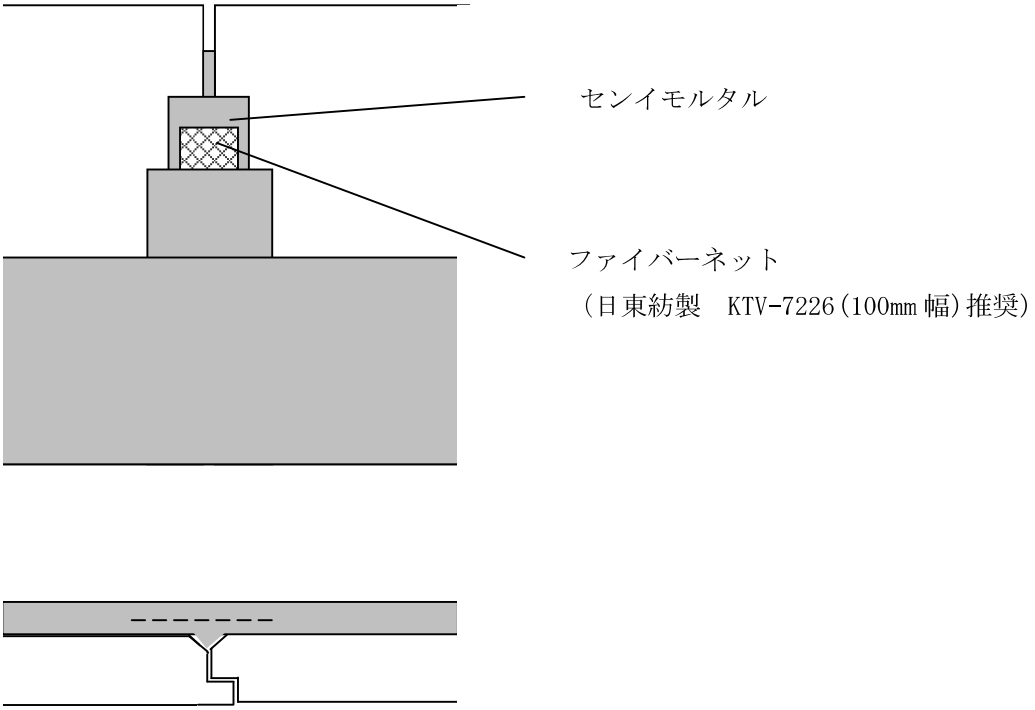


図 1 ジョイント処理・下地処理図
（上；平面図、下；断面図）

・ジョイント部同様､出隅部はファイバーネットを伏せ込み補強および割れ防止の措置を行ってください。
・下地が十分に乾燥した後､次工程に移って下さい。目安としては 3 日間以上です。ただし、気象条件により異なりますので必ず確認を行って下さい。下地が乾燥しないうちに仕上材を塗り付けると色むら等の恐れがあります。

5.ブロック下地の場合

ａ.新設の場合

a-1.施工面の確認

・ブロック積み後７日間以上養生した後に次工程に移ってください。ブロック積みの際には目地部分はブロック面と同じ高さになるようにコテで余分なモルタルは切って仕上げて下さい。目地押さえは不用です。

a-2.吸水調整

・施工面に付着した汚れ、ホコリ（不純物等）等は水洗い等により予め取り除いて下さい。

・下地を確認した後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した後、乾燥し塗膜が透明になってから次工程に移って下さい。目安としては４時間以上です。特に吸水が激しい場合には吸水調整材を再度塗りつけてください。

a-3.下地調整

・吸水調整材が乾燥してから、ベース＃30（建築用下地調整塗材ＣM-2 表示認定製品；ポリマーセメントモルタル）で施工面全面に 5㎜ 程度塗り付け、下地調整を行って下さい。

・下地調整の後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

ｂ.既設の場合（リフォーム）

b-1.施工面の確認

・施工面に付着した汚れ、ホコリ（不純物等）等を水洗いにて取り除いて下さい。

b-2.吸水調整

・清掃後、施工面全面にユニレックス３の５倍希釈液にて吸水調整を行って下さい。吸水調整材を塗布した後、乾燥し塗膜が透明になってから次工程に移って下さい。目安としては４時間以上です。

b-3.下地調整

・目地部分及び極端な凹部はポリマーセメントモルタル（ベース#30 など）を充填して補修して下さい。

・その後、ベース＃30（建築用下地調整塗材ＣM-2 表示認定製品；ポリマーセメントモルタル）で施工面全面に 5㎜ 程度塗り付け、下地調整を行って下さい。

・下地調整の後、１週間以上養生してから次工程に移って下さい。養生が浅いと色むら等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。

関連施工資材

珪藻土配合化粧仕上材

ユニオンカベックス

内外装薄塗仕上材

内　容　量　１５ｋｇ紙袋

ﾊﾟﾀｰﾝ名称	標準施工面積 m²/袋	塗厚 ｍｍ	標準加水量 L/袋	施工道具
あらなみ	12.0	1.5	4.2	コテ
せせらぎ				
刷毛引き				コテ、左官刷毛
２色マーブル	ﾍﾞｰｽ色 16.0 ﾄｯﾋﾟﾝｸﾞ色 130ｇ/m²			コテ
吹付	15.0	1.0	5.7	リシンガン
テンダーR	8.0	2.0	4.2	コテ、テンダーローラー、ヘッドカットローラー
砂岩調	5.5	3.0	2.8	コテ、左官刷毛
スパニッシュ				コテ
古壁				
わだち				コテ、くし目コテ
虫喰い	6.0	2.0	2.4	コテ、木ゴテ
虫喰い（横）				
砂壁	7.0		2.6	コテ
いおり	8.0		2.8	
素地用	20.0	0.7	4.2	

□　色調や仕上がりに影響しますので練水量の管理は徹底して下さい。

珪藻土配合化粧仕上材

ユニオンカベックス　ソフトタッチ

内装専用薄塗仕上材

内　容　量　１０ｋｇ紙袋

標準施工面積　１５．０m²／袋　（１．０㎜塗厚時）

標準加水量　５．０ℓ／袋

吸水調整材

ユニレックス３

エチレン酢酸ビニル（ＥＶＡ）系合成樹脂エマルジョン

内　容　量　１８ℓ　　ＰＩ缶入

標準施工面積　６００m²／缶　（５倍希釈、１２０ｇ／m²塗布時）

クロス下地専用シーラー

ユニオンシーラーＫＣ

アクリル系合成樹脂エマルジョン

内　容　量　２ℓ　　ペットボトル入

標準施工面積　２０m²　（原液塗布、１００ｇ／m²塗布時）

下地調整・補修材

ベース＃１０　JIS A 6916(C-2) 表示認証製品

内　容　量　２０ｋｇ

標準施工面積　７．８m²／袋　（２㎜塗厚時）

標準加水量　６．２ℓ／袋

下地調整・補修材

ベース＃２０　JIS A 6916(CM-1) 表示認証製品

内　容　量　２５ｋｇ

標準施工面積　４．０m²／袋　（５㎜塗厚時）

標準加水量　５．０ℓ／袋

下地調整・補修材

ベース＃３０　JIS A 6916(CM-2) 表示認証製品

内　容　量　２５ｋｇ

標準施工面積　４．０m²／袋　（５㎜塗厚時）

標準加水量　７．５ℓ／袋

ジョイント処理・下地調整材（高性能ﾌｧｲﾊﾞｰ配合下地調整材）

センイモルタル

内　容　量　１５ｋｇ

標準施工面積　７．５m²／袋　（２㎜塗厚時）

標準加水量　４．４ℓ／袋

軽量厚塗りモルタル材

ヒットモルタル　JASS15M102 規格適合品（防火構造・準耐火 45 分認定指定品）

内　容　量　２５ｋｇ

標準施工面積　１．５m²／袋　（１６㎜塗厚時）

標準加水量　８．０ℓ／袋

ユニオンカベックス
施工上の注意

・下地は十分に乾燥させた上で施工を行って下さい。
・気温が５℃以下、もしくは５℃以下が予想される時には原則として施工を行わないで下さい。又、施工後、塗面が完全乾燥する前に、０℃以下になる恐れがある場合には施工を行わないで下さい。
・施工前、施工後は雨風、直射日光など天候に十分注意し、必要ならばシート養生等を確実に励行して下さい。
・外部にて使用する際、降雨時及び降雨が予想される場合の施工は避けて下さい。
・塗面が乾燥しきらないうちに雨に当てないで下さい。降雨の恐れがある場合には必ずシート養生を行い、塗面に雨がかからないよう十分に注意して下さい。
・乾燥時間は、夏場で１昼夜、冬場で２昼夜を目安としていますが気象条件、塗り厚などによってはそれ以上の期間を必要とすることがあります。
・天端部分への施工はお避け下さい。
・お風呂場など特に湿気の多い場所への使用はお避け下さい。
・施工前に試し塗りを行い仕上がりを確認して下さい。（決定サンプル塗板との比較）
・塗り付け（配り塗り）とパターン付けとを分担し、スムーズな施工が行えるよう段取りをして下さい。
・施工後、使用した道具（コテ、ローラー等）を速やかに水洗いして下さい。
・ユニオンカベックスは練り置き後、夏季は２０分、冬季は４０分のうちに御使用下さい。また、水を入れての練り返しは避けて下さい。
・ユニオンカベックスには練り水の他、当社が指定したもの以外のものを混ぜないで下さい。
・ユニオンカベックスの保管は、セメントと同じく直射日光、湿気を避け、パレット等で地面から離して保管して下さい。

ﾕﾆｵﾝｶベックスの塗り付け

２色マーブル

標準施工面積 ベース色　１６ｍ^2／袋（厚み１．０ｍｍ）

トッピング色　１３０ｇ／ｍ^2

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝカベックス１袋（１５kg）に規定量の水(約4．2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックス（ベース色）を施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０ｍｍ程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝカベックス（ベース色）を所定の厚み（標準１．０ｍｍ）まで塗り付けて下さい。

② その後、追っかけにてﾕﾆｵﾝカベックス（トッピング色）で模様を付けて仕上げて下さい。

※パターンの付け方によってはトッピング色の使用量が増減します。

総塗厚１．５ｍｍ

ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽの塗り付け

あらなみ

標準施工面積 １２ｍ²／袋（厚み１．５ｍｍ）

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽ１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽを施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽを所定の厚み（１．５ｍｍ）まで塗り付け、表面を平滑に仕上げて下さい。

② その後、追っかけにて金ゴテで８の字を描くように模様を付けて仕上げて下さい。

総塗厚１．５ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

古壁

１．素地こしらえ　　標準施工面積 ２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

α 十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積 ５．５ｍ²／袋（厚み３ｍｍ）

① ユニオンカベックス（古壁）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.8L を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② ユニオンカベックス（古壁）を金ゴテで３mm程度塗り付けて下さい。その際、フラットになりすぎないようにコテムラをのこしてラフに仕上げて下さい。イメージとしては塗りっぱなし壁です。

総塗厚３．７ｍｍ

ﾕﾆｵﾝカベックスの塗り付け

リーフ

標準施工面積　８ｍ^2／袋（厚み２．０ｍｍ）

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝカベックス１袋（１５kg）に規定量の水(約4．2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※水量が多すぎると、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックスを施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０ｍｍ程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝカベックスを所定の厚み（２．０ｍｍ）まで塗り付け平滑に仕上げて下さい。

※塗厚が均一でないとパターンにムラが出ます。

※塗厚が薄すぎるとパターンが出ない場合があります。

② コテ板に練り上がったﾕﾆｵﾝカベックスを載せ、コテ板の上でリーフローラーを転がして、予めリーフローラーにﾕﾆｵﾝカベックスを付けて下さい。

※この時、余分についたﾕﾆｵﾝカベックスはコテ等で取り除いて下さい。パターンにムラが出ます。

③ 下塗りしたﾕﾆｵﾝカベックスが乾燥しないうちに（下塗りしてから追っかけで５～１０分程度以内)、リーフローラーを上から下へ転がして、パターン付けを行って下さい。

？※リーフローラーを転がす際にはローラーの柄をなるべく壁面に近づけ、ローラーを下に引っ張るようにしてパターン付けを行って下さい。

※リーフローラーに付着したﾕﾆｵﾝカベックスは適宜取り除いて下さい。パターンにムラが出ます。

④ パターンをつけた後追っかけで（パターン付けから５～１０分程度以内)、予め離型材で浸したヘッドカットローラーで表面を軽くなでるような感じで押さえて下さい。

※ヘッドカットローラーは常に離型材で濡らして下さい。離型材がついていないとﾕﾆｵﾝカベックスがくっつきパターンがくずれます。

総塗厚２．０ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

スパニッシュ

１．素地こしらえ　　標準施工面積　２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

α　十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※　これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積　５．５ｍ²／袋（厚み３ｍｍ）

① ユニオンカベックス（スパニッシュ）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.8L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※　水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

α　ユニオンカベックス（スパニッシュ）を金ゴテで塗り付けた後、コテでランダムに模様を付けて仕上げて下さい。

総塗厚３．７ｍｍ

ﾕﾆｵﾝカベックスの塗り付け

テンダーR

標準施工面積　８．０ｍ²／袋（厚み２．０ｍｍ）

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝカベックス１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※水量が多すぎると、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックスを施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０ｍｍ程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝカベックスを所定の厚み（２．０ｍｍ）まで塗り付け平滑に仕上げて下さい。

※塗厚が均一でないとパターンにムラが出ます。

※塗厚が薄すぎるとパターンが出ない場合があります。

② コテ板に練り上がったﾕﾆｵﾝカベックスを載せ、コテ板の上でテンダーローラーを転がして、予めテンダーローラーにﾕﾆｵﾝカベックスを付けて下さい。

※この時、余分についたﾕﾆｵﾝカベックスはコテ等で取り除いて下さい。パターンにムラが出ます。

③ 下塗りしたﾕﾆｵﾝカベックスが乾燥しないうちに（下塗りしてから追っかけで５～１０分程度以内)、テンダーローラーを上から下へ転がし、ローラーの向きをランダムにばってん（×）を描くようなイメージでパターン付けを行って下さい。

？※テンダーローラーを転がす際にはローラーの柄をなるべく壁面に近づけ、ローラーを下に引っ張るようにしてパターン付けを行って下さい。

※テンダーローラーに付着したﾕﾆｵﾝカベックスは適宜取り除いて下さい。パターンにムラが出ます。

④ パターンをつけた後追っかけで（パターン付けから５～１０分以内程度)、予め離型材で浸したヘッドカットローラーで表面を軽くなでるような感じで押さえて下さい。

※ヘッドカットローラーは常に離型材で濡らして下さい。離型材がついていないとﾕﾆｵﾝ　カベックスがくっつきパターンがくずれます。

総塗厚２．０ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

わだち

１．素地こしらえ　　標準施工面積 ２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積 ５．５ｍ²／袋（厚み３ｍｍ）

① ユニオンカベックス（わだち）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.8Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎると、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② ユニオンカベックス（わだち）を金ゴテで３mm程度塗り付け、平滑にならします。

③ くし目ゴテを使用して横に引きずり、模様をつけて仕上げます。

※ その際、くし目ゴテは塗り面に対して４５度程度ねかせて模様を付けるとよりくっきりとした仕上がりになります。

※ くし目を引く際、材料がくし目ゴテに付着します。そのまま使用するとパターンがくずれますので適宜コテ板等を使用して、取り除いて下さい。

総塗厚３．７ｍｍ

ﾕﾆｵﾝカベックスの塗り付け

せせらぎ

標準施工面積 １２ｍ^2／袋（厚み１．５ｍｍ）

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝカベックス１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックスを施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝカベックスを所定の厚み（１．５ｍｍ）まで塗り付け、表面を平滑に仕上げて下さい。

② その後、追っかけにて木ゴテ（スチロールゴテ）を横に引きずり模様を付けて仕上げて下さい。

総塗厚１．５ｍｍ

ﾕﾆｵﾝカベックスの塗り付け

いおり

１．素地こしらえ　　標準施工面積 ２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ﾕﾆｵﾝカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.２L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

α 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のﾕﾆｵﾝカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積 ８．０ｍ²／袋（厚み２ｍｍ）

① ﾕﾆｵﾝカベックス（いおり）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.８L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

α ﾕﾆｵﾝカベックス（いおり）を金ゴテで２mm程度塗り付けて仕上げて下さい。

総塗厚２．７ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

砂岩調

１．素地こしらえ　　標準施工面積 ２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積 ５．５ｍ²／袋（厚み３ｍｍ）

① ユニオンカベックス（砂岩調）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.8L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② ユニオンカベックス（砂岩調）を金ゴテで塗り付けた後、部分的にユニオンカベックスを載せ、ランダムに段差が出来るように仕上げて下さい。

※ この後、砂岩調の模様に沿って左官刷毛により刷毛目を入れるとよりパターンが際だちます。その際、刷毛は蛇行させることなくまっすぐに動かして下さい。

※ 左官刷毛を使用した際には、材料が刷毛に付着します。付着したままではパターンがくずれますので適宜取り除いて下さい。その際、水を使用する場合には必ず水を十分に切ってから使用して下さい。パターンがぼけたり、色むらの原因になります。

総塗厚３．７ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

砂壁

１．素地こしらえ　　標準施工面積　２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積　７．０ｍ²／袋（厚み２ｍｍ）

① ユニオンカベックス（砂壁）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.6L）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② ユニオンカベックス（砂壁）を金ゴテで２mm程度塗り付けて仕上げて下さい。

総塗厚２．７ｍｍ

ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽの塗り付け

刷毛引き

標準施工面積 １２ｍ²／袋（厚み１．５ｍｍ）

１．下塗り

① ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽ１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽを施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け下塗りを行って下さい。

２．パターン付け

① 下塗り後、追っかけにて再度ﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽを所定の厚み（１．５ｍｍ）まで塗り付け、表面を平滑に仕上げて下さい。

② その後、追っかけにて左官刷毛を使用して横に引きずって仕上げて下さい。

※ 刷毛引き仕上げの際、左官刷毛にﾕﾆｵﾝｶﾍﾞｯｸｽが付着します。そのままパターン付けを続けるとパターンがくずれますので適宜取り除いて下さい。その際水を使用する場合は、色むらの原因になりますので、十分に水を切った後、使用して下さい。

総塗厚１．５ｍｍ

ﾕﾆｵﾝカベックスの吹き付け

吹き付け

標準施工面積　１５ｍ²／袋（厚み１．０ｍｍ）

１．下吹き

① ﾕﾆｵﾝカベックス１袋（１５kg）に規定量の水(約5．7Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。
※水量が多すぎると、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので十分注意して下さい。

② 十分に混練したﾕﾆｵﾝカベックスを上記の条件にてリシンガンで吹き付け、下吹きを行って下さい。下吹き乾燥後、仕上げ吹きを行って下さい。目安としては夏期　２時間以上、冬期　４時間以上の乾燥時間を設けて下さい。（温度、湿度により多少異なります。）
乾燥すると色が濃くなりますので、乾燥を確認した後、次工程に移って下さい。

◆下吹きの条件
使用ガン　　リシンガン　口径３．８ｍｍ
吹圧力　　５～６ｋｇｆ／ｃｍ²

２．仕上げ吹き

① 下吹きと同条件にて、全体に均一に吹き付け、仕上げ吹きを行って下さい。

◆仕上げ吹き
使用ガン　　リシンガン　口径３．８ｍｍ
吹圧力　　５～６ｋｇｆ／ｃｍ²

・現場にて骨材を混入することでより粗い仕上がりも可能です。
・施工前には必ず試し吹きを行い、パターンを確認して下さい。

【　注　意　】
・吹き付けの際、ガンを壁面に対し垂直に向けて吹き付けを行って下さい。斜め吹きはしないで下さい。
・ガンを壁面に近づけ過ぎないで下さい。壁面から５０～１００cm 離れて広範囲に吹き付けを行って下さい。

総吹厚１．０ｍｍ

ユニオンカベックスの塗り付け

虫喰い

１．素地こしらえ　　標準施工面積 ２０ｍ²／袋（厚み０．７ｍｍ）

① ユニオンカベックス（素地こしらえ用）１袋（１５kg）に規定量の水(約4.2Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

α 十分に混練したユニオンカベックスを下地の素地こしらえのために、施工面全面に金ゴテにて０．５～１．０mm程度塗り付け２～４時間程度養生して下さい。

※ これはパターン付けの際に粗い骨材が転んで下地の『地』が見えないようにするために、予め共色のユニオンカベックスを扱き塗りしておきます。よって十分に乾燥していないと共色を扱いても骨材が転んで『地』が見えてしまいますので、必ず２～４時間養生し、十分に乾燥させてから次工程（パターン付け）に移って下さい。

２．パターン付け　　標準施工面積 ６．０ｍ²／袋（厚み２ｍｍ）

① ユニオンカベックス（虫喰い）１袋（１５kg）に規定量の水(約2.4Ｌ）を加え、ハンドミキサー等で十分に混練して下さい。

※ 水量が多すぎるとパターンによっては、塗面がダレて仕上がりに模様ムラが出来ますので所定の水量を厳守して下さい。

② ユニオンカベックス（虫喰い）を金ゴテで１．５～２mm程度塗り付けて下さい。

※ 厚く付けると骨材が転ばないので、骨材の大きさ程度の厚みをつけるかんじで扱き塗りして下さい。

③ 木ゴテ（ニューモルタルゴテ）を使用して円を描くように動かし部分的に骨材が転がった跡を付けて下さい。

総塗厚２．７ｍｍ

ユニオンカベックス
施工上の注意

・下地は十分に乾燥させた上で施工を行って下さい。
・気温が５℃以下、もしくは５℃以下が予想される時には原則として施工を行わないで下さい。又、施工後、塗面が完全乾燥する前に、０℃以下になる恐れがある場合には施工を行わないで下さい。
・施工前、施工後は雨風、直射日光など天候に十分注意し、必要ならばシート養生等を確実に励行して下さい。
・外部にて使用する際、降雨時及び降雨が予想される場合の施工は避けて下さい。
・塗面が乾燥しきらないうちに雨に当てないで下さい。降雨の恐れがある場合には必ずシート養生を行い、塗面に雨がかからないよう十分に注意して下さい。
・乾燥時間は、夏場で１昼夜、冬場で２昼夜を目安としていますが気象条件、塗り厚などによってはそれ以上の期間を必要とすることがあります。
・天端部分への施工はお避け下さい。
・お風呂場など特に湿気の多い場所への使用はお避け下さい。
・施工前に試し塗りを行い仕上がりを確認して下さい。（決定サンプル塗板との比較）
・塗り付け（配り塗り）とパターン付けとを分担し、スムーズな施工が行えるよう段取りをして下さい。
・施工後、使用した道具（コテ、ローラー等）を速やかに水洗いして下さい。
・ユニオンカベックスは練り置き後、夏季は２０分、冬季は４０分のうちに御使用下さい。また、水を入れての練り返しは避けて下さい。
・ユニオンカベックスには練り水の他、当社が指定したもの以外のものを混ぜないで下さい。
・ユニオンカベックスの保管は、セメントと同じく直射日光、湿気を避け、パレット等で地面から離して保管して下さい。